

◇ はじめに

平成 20 年度文部科学省青少年体験活動総合プラン

「廃校を活用した生活体験と演劇創作事業」

特定非営利活動法人自然体験共学センター
理事長 辻 一憲

文部科学省は、次代を担う自立した青少年の育成を図り、青少年の様々な課題に対応した体験活動を充実するため、「青少年体験活動総合プラン」に取り組んでいます。そのプランの一つである「多様な場を生かした生活体験事業」に本事業を申請したところ採択を受け、このたび「廃校を活用した生活体験と演劇創作事業」に取り組みました。「多様な場」の一つとしての廃校を活用し、子ども達が生活体験・自然体験を行いながら、地域の劇団と異世代間交流し、地域の民話を題材にしながら演劇を創作・練習し、地域の方々に発表するという事業でした。廃校のある地域の方々、劇団関係者、自然・文化・歴史に造詣の深い方々が協力くださったおかげにより本事業は大変盛り上がり、また活動期間の様子、創作した演劇の発表会の様子を報道機関各社が相次いで取材し、紹介してくださいました。

山間地域では、過疎化・高齢化が今後もますます進行し、また廃校も増えていくことでしょう。しかし、実はそうした地域には様々な魅力や教育資源—自然・文化・歴史・農・森・川・人材・施設（廃校なども含めて）が存在しています。そしてこれらを生かした学びのプログラム作り、学びの場作りの一つの事例として、本事業とその成果を多くの方々に伝えてまいりたいと考えております。

最後になりますが、本事業を採択いただき力強くご支援いただいた文部科学省をはじめ、関係諸機関のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

森の子劇団に寄せてのメッセージ

「 森の子劇団を見て 」

私は若い頃から美山町を中心にして民話を収集してきた。また、全国のたくさんの方の民話も呼んできた。そして、平成 9 年「みやま木ごころ一座」を結成し、民話劇を演じてきた。更に、平成 14 年には「劇団ババーズ」をつくって、7 年間、総て民話から脚本をとってきた。

平成 20 年 8 月、旧上味見小学校の NPO 法人自然体験共学センターに、京都・大阪あたりから子ども達が集まって、自然体験をし、上味見地区の民話を集めて劇化したものを見ることが出来た。民話を上手くアレンジしていて、面白おかしく演じたのには感心した。それぞれに個性が現れていて、どれも子ども達のアイデアいっぱいの劇で楽しかった。

私の劇団ババーズとも交流があった。ババーズのおばあちゃん達は、子どものセンスのよさに感心していた。劇団ババーズはもう 7 年間で 135 回も公演してきたが、演技はそれほどうまくない。ただ、声が大きくなり、記憶力がよくなり、病気まで治ってきた。みんなの前で演じて、拍手を受けるとこんなにも変わってくるのだ。

森の子劇団も、芝居を続けたら、役者としての演技も増すし、脚本作りや演出力もついてくると期待が持てる頼もしい素人劇団だなと思った。

劇団ババーズ 座長 林幸男

1. 廃校を活用した生活体験と演劇創作事業の概要

1.1. 事業の趣旨・ねらい

【背景】

福井県福井市上味見地区は、山や川などの大自然に恵まれた環境にある。そのような恵まれた自然を活用し、地域の方の助言や協力を得ながら、NPO 法人自然体験共学センターは平成 17 年より上味見生涯教育施設（旧上味見小学校）を活動拠点に小学生・中学生を対象とした自然体験活動・集団生活体験を行ってきた。また、足羽川の近くには下味見生涯教育施設（旧下味見小学校）があり、上味見生涯教育施設とは違った自然体験活動のプログラムが展開できる。

また、上味見地区のある旧美山町は、美山町内に住む小学生～80 歳代までの幅広い年齢層で構成されている市民劇団『木ごころ一座』や旧美山町蔵作地区の 60 歳以上の高齢者で構成されている劇団『ババーズ』といった住民による劇団が結成し、旧美山町の文化ホールや県内外において公演を行うなど、演劇を通しての街づくりや地域活性化の活動が行われている。

【現代の子ども達が抱える課題】

現代の子ども達が抱える課題で特に憂慮すべき課題に①コミュニケーション力及び表現力の不足と②自然体験や生活体験などの直接体験及び直接体験より獲得される生活スキルの不足が考えられる。

- ① コミュニケーション力及び表現力の不足という課題は、電子メールや BBS、SNS などの普及により、コミュニケーション手段が『話す』コミュニケーションから『書く』コミュニケーションへと変化していることや核家族化・少子化によりコミュニケーションをとる相手が減っていることなどに端を発している課題だと考えられ、これにより自分の思いを的確な言葉により直接相手に伝えられなかったり、表現方法が単一的になるなどの問題を抱えていると考える。
- ② 自然体験や生活体験などの直接体験及び直接体験より獲得される生活スキルの不足という課題は、子どもたちが触れることのできる身近な自然環境が減少していることや家事の機械化により家庭でのお手伝いが減少していることに端を発している課題だと考えられ、自然体験や生活体験などの直接体験の現象により、直接体験でしか獲得することのできない生活スキルが不足していると考える。
また、小学校高学年～中学生までの子どもたちに必要な力に創造力があると考えられる。自分の明るい未来を切り拓くためにも必要な力であり、現代社会が求めている力の一つであるからである。

【本事業のねらい】

本事業では、旧美山町が持つ自然財と演劇活動により培われた地域財を最大限に活かし、現代の子どもたちが抱える課題を考慮し、本事業のねらいを設定した。

- ① 『木ごころ一座』や『ババーズ』といった旧美山町の住民劇団との交流を通し、演劇を紹介した世代間交流・文化交流を行うことができる。
- ② 演劇教育の要素を取り入れながら、台本作りから発表までを一体として行うことで、表現力やコミュニケーション力、また創造力を育成することができるとともに、グループとして劇を創っていく中で協調性や協働の意識が育てられ、また、劇創りを達成することで自己効力感を高めることができる。
- ③ 上味見地区の豊かな自然の中で一週間を過ごすことで、夏の自然の豊かさ・自然の面白さを感じるとともに、集団生活体験を通して、仲間との人間関係作りを直接体験より得られる生活スキルを獲得することができる。

1.2. 事業の実施内容

1.2.1. 委員会および事業の開催

自然体験活動の有識者、及び、美山地区の関係者、福井県教育委員会の担当部局による検討委員会、及び、そのための準備委員会を開催した。

〈開催日程〉

	委員会・会議		モデル事業
6月17日	第1回企画運営会議		
6月28日	第2回企画運営会議		
7月1日	第1回事業検討委員会		
		7月5日	プレキャンプ・保護者説明会（京都）
		7月6日	プレキャンプ・保護者説明会（大阪）
7月12日	第3回企画運営会議		
		8月10日～17日	演劇創作事業 本キャンプ実施
9月28日	第4回企画運営会議	9月28日	キャンプふりかえり会（大阪）
1月31日	第2回事業検討委員会		

〈開催内容〉

①事業検討委員会

第1回

時期：平成20年7月1日（火）
場所：福井市上味見生涯教育施設

第2回

時期：平成21年1月31日（土）
場所：福井市美山公民館

②企画運営会議

第1回：「企画運営会議」平成20年6月17日

内容：関係者・指導者の顔合わせ、企画検討・意見交換など

第2回：「企画運営会議」平成20年6月28日

内容：自然体験・子どもの生活体験補助にあたるスタッフ同士での計画内容についての協議・意見交換など

第3回：「企画運営会議」平成20年7月12日

内容：演劇創作の計画に対する意見交換・アドバイスなど
地元劇団との交流体験活動についての調整会議

第4回：「企画運営会議」平成20年9月28日

内容：1ヵ月を経ての、事業の検証・意見交換と、次年度に向けての構想など。

③プレキャンプ・保護者説明会

(1) 京都

開催日程：平成20年7月5日（土）
開催場所：京都アスニー
参加人数：7名

内容：自己紹介、事業概要説明、質疑応答など

(2) 大阪

開催日程：平成20年7月6日（日）

開催場所：大阪府立青少年会館

参加人数：12名

内容：自己紹介、事業概要説明、質疑応答など

④モデル事業「廃校を活用した生活体験と演劇創作事業」（演劇キャンプ）

開催日程：平成20年8月10日（日）～17日（日）7泊8日

開催場所：上味見生涯教育施設（旧上味見小学校）、伊自良温泉
及び上味見地区並びに蔵作地区

参加人数：15名（小学生9名、中学生6名）

内容：演劇創作、地元劇団との交流、自然体験、生活・文化体験など

⑤ふりかえり会

開催日程：平成20年9月28日（日）

開催場所：大阪府立青少年会館

参加者数：11名

保護者：5名

スタッフ名：9名

内容：1ヵ月経て活動のふりかえり、交流 など

1.2.2. 委員構成

〈事業検討委員会〉

（敬称略）

役割	氏名	所属	役職
委員長	前川 勝己	福井市美山公民館	館長
副委員	林 幸男	木ごころ一座、ババーズ	座長
委員	山岸 俊一	福井県教育庁生涯学習課	課長
委員	杉村 敏隆	福井県教育庁義務教育課	課長
委員	高橋栄次郎	福井市美山総合支所	支所長
委員	清水 重勝	福井市美山総合支所	次長
委員	清水 武	福井市教育委員会美山分室	室長
委員	安竹 良則	福井市教育委員会学校教育課	
委員	多野 太右エ門	福井市上味見区長会	会長
委員	南部 盟	福井市下味見区長会	会長
委員	梅田 秀彦	福井市伊自良の里資料館	館長
委員	小林 悟	伊自良の里振興協会	理事
委員	下村 泰史	京都造形芸術大学環境デザイン学科 地域デザインコース	准教授
委員	辻 一憲	NPO法人自然体験共学センター	理事長

〈企画運営会議〉

(敬称略)

役割	氏名	所属	役職
委員長	辻 一憲	NPO法人自然体験共学センター	理事長
委員	林 幸男	木ごろろ一座、ババーズ	座長
委員	小林 悟	伊自良の里振興協会	理事

〈事務局〉

事務局	長田 信恵	NPO 法人自然体験共学センター
事務局	川原 優一	NPO 法人自然体験共学センター
事務局	遠藤 典子	NPO 法人自然体験共学センター
事務局	伊藤 弘晃	CONE インストラクター
事務局	濱見 彰映	CurriculumVitae プロデューサー

2. 廃校を活用した生活体験と演劇創作事業 実施報告

[1日目] 平成20年8月10日(日) 「出会いの日」

時間	活動内容
17:00	オリエンテーション・自己紹介 * 一週間過ごす、キャンプ場でのルール確認。 * 班の名前、役割分担きめ
18:00	夕食
19:30	ウェルカムファイヤー・星空観察 * 参加者及び、ボランティア大学生から、今回のキャンプでの目標を宣言!
20:30	ふりかえり * 一週間のしおりに毎日感じたことを書く。
21:00	就寝 * キャンプ場でテント泊



グループレコード・ふりかえりの感想

初めて会った人だけど、なかよくできた。(小5女子)

初日内容について

会場到着後、生活ルールや活動日程の確認した。

夕食は事前に用意、グループ発表・メンバー自己紹介などを行った。

ウェルカムファイヤーでは、ゲームなどを通じて、参加者同士の交流時間を設けた。また、ファイヤー終盤では、参加者それぞれの一週間のキャンプに対する決意表明を行った。

一人一人、自然体験と演劇創作に対する意欲が高く、また、仲間同士での創作活動にも興味を示していた。

[2日目] 8月11日(月) 「発見の日」

6:00	起床・朝のつどい *健康チェック・活動確認
7:00	朝食作り *昼食の行動食も同時に調理
10:15	はじまりの会 *元上味見小学校の校長先生で、劇団「ババーズ」の座長もしておられる 「林幸男」先生より、参加者の子どもたちへ、劇作りに大切なお話と上味見に伝わる民話を聞きました
11:00	MTB講習会 *MTBのセーフティトーク
11:30	MTBアクティビティ・昼食 *河内地区へ全員で、MTB散策 *途中の神社で昼食
15:30	発生練習 *キャンプ場にて、初の発声練習！ *ストレッチ・演劇基礎など
16:30	夕食準備・夕食
20:30	民泊 *民家宿泊体験。 *地域の方との交流



2日目実施内容について

2日目から、食事作りも全員で協力して行うことになった。また、この日は午前中から午後にかけてMTB活動を予定していたため、朝食作りと並行して、昼食も作るようになった。初めてMTBを体験する参加者がほとんどだったのにも関わらず、戸惑うことなく上味見地域を気持ちよさそうに走っていた。

普段徒歩や車では見られない景色、自分たちが見たいものや行きたい場所に思い通りに走っていける。

ふりかえり 感想

今日は久しぶりに火おこしをして、火が大きくなった。

サイクリングはめっちゃ楽しかったー！！(参加者小5)

最初はまっすぐすすめるかな？とかこけないかなとか不安だったけど、やってみれば意外にかんたんで気持ちよかったです。(参加者小6)

[3日目] 8月12日(火) 「創作の日」

6:30	起床・朝のしたく *健康チェック・活動確認
7:30	朝食作り・朝食
10:00	民話調べ *各班毎に、台本作りの情報収集へ(MTB使用)
13:00	昼食
14:00	台本作り
16:30	野外料理 *ダンボールオーブンでのピザ作り
19:30	夕食
20:30	ふりかえり
21:00	就寝



3日目実施内容について

この日より、演劇キャンプの創作活動を開始。

2日に引き続きMTBで、上味見地域の住民の方々に民話を尋ねて歩きます。

班毎に、創作する民話も決定して、いよいよ演劇作りの始まりです。

台本作りは初めてのことばかり、ご飯を食べるときや夜の時間も、班の中で劇作りの話がちらほらと聞こえてきました。

ふりかえり 感想

台本の案を、たくさんだして、みんなに楽しんでもらえる劇を目指して頑張った。今日はあまりできなかったけれど、おもしろかった。

明日はババーズとの交流でいろいろと教えていただきたいです。(参加者小6女子)

[4日目] 8月13日(水) 「創造の日」

6:00	起床 朝のつどい
7:00	朝食作り・朝食
9:45	劇団ババーズの方々との交流 * 劇団ババーズお芝居鑑賞。 * 質疑応答・交流会
11:30	蔵作り地区で野外発声練習など
13:00	昼食
14:30	劇作り
16:30	伊自良温泉 * 発表場所の伊自良温泉を見学
18:00	夕食作り・夕食
20:30	ふりかえり
21:00	就寝



4日目実施内容について

劇団「ババーズ」の方々との交流の日。まずは劇団メンバーと参加者の子どもたちの自己紹介。そして劇団「ババーズ」のお芝居を鑑賞。鑑賞後子ども達から、メンバーの方たちへお芝居についての質疑応答の時間となりました。

演劇を始めたきっかけ、舞台上で大切にしていることなど、世代を超えた交流の時間になりました。

ふりかえり・感想

劇には年とか関係なくお年寄りから子どもまでみんなで楽しめることだというのを改めて実感した。(参加者中 2 男子)

[5日目] 8月14日(木) 「葛藤の日」

6:00	起床・朝のつどい
7:00	朝食
10:00	劇練習・道具作り
12:00	昼食
13:30	舞台見学
14:00	川遊び * 伊自良温泉横の川で、魚つかみ体験!
16:30	夕食作り・夕食
20:00	劇練習
21:00	就寝



5日目実施内容について

すべての班で台本作りが終了。小道具作りも班毎にスタートしていた。昼食後、実際の舞台を全員で見学。客席にお客さんがいることを想像しながら、大きな声で劇の練習をしました。

みんなでそれぞれのお芝居を、見せ合って感想やアドバイスも聞いてみました。思っても見ない感想や、よかったなどの意見を聞いて、みんな本番に向けての気持ちが高まっています。

会場での練習ご、近くをながれる川で、魚つかみ体験を実施。夕食の食材調達と、川遊びの時間とした。

夕方近くになると、天候が不安定になってきたので、企画責任者と相談の上、夕食はキャンプ場から移動し、隣接する校舎の中で行った。

ふりかえり・感想

今日はぶたいで練習して、みんなが笑ってくれたのがよかった。タヌキの役を、こなしてがんばった。明日は本番なので、がんばります。(小 6 女子)
